GWＩ 100 周年記念大会に参加して

大学女性協会奈良支部　中道貞子

2019 年 7 月 25 日からジュネーブで開催された GWI(Graduate Women International) 第 33 回大会に参加した。100 周年記念大会という節目の大会であり，テーマが Peace through Education ということも参加の大きな動機となった。自分の英語力のなさを痛感し，悔しい思いもしたが，留学経験もなく，中等教育学校で生物を教えることを生業としていたのだから，今さら嘆いても始まらない。それでも，いろいろなことを考える貴重な機会となったので，初めて参加した世界大会について，自分なりにまとめておきたい。

日本からは，約 30 人の参加があった。岡山支部からは４人の方が参加されており，帰国後，支部の会で報告するとのことで熱心に総会行事にも参加されていた。私は，初めてのヨーロッパであり，折角来ているのだから・・と，途中抜け出して，関心のある場所を訪問する時間もつくった。会が終わってからは，スイスの自然の中で数日を過ごして帰国した。

８月７日にアップデートされた GWI ニュースレターに本大会の報告があるので，この報告も参考にしながら，自分の記録として以下の報告を作成した。

（GWI ニュースレターに掲載された写真より）

モンブラン橋に掲げられた GWI100 周年の旗

開会式風景

100 周年記念祝賀会（左）　WTO 訪問（中）　Peace through Education 口頭発表風景（右）

1. 大会の概要

－ GWI 33rd Triennial and Peace through Education Conference －

2019 年 7 月 25～28 日にスイスのジュネーブで開催された第 33 回トリエンナーレ総会(GA)，100 周年記念と「平和は教育から」会議は，50 か国以上から 400 人以上の GWI 代表や一般参加者を迎えて開催された。

ニュースレターには「この 100 周年記念という重要な節目のイベントは，変化するグローバルな環境の中での GWI の新たな始まりを表しています。すなわち，社会的経済的格差を拡大する世界的な政策を知り，世界中の女性と少女の権利を保護する世界的および各国のガバナンスを提唱することに焦点を当て，国連と戦略的関係を共有するときです。『平和は教育から』というテーマは，教育，特に平和で公正かつ持続可能な社会の礎としての女性と少女の教育に対する根強い認識を反映しています」と記されている。

大会期間中の行事の概要は以下の通りである。

33rd Triennial GWI General Assembly (July)	
25 (Thu)	Formal Opening
	Business Session 1~3
	Centenary Celebration
26 (Fri)	Keynote Discussion
	Business Session 4~5
	Visit to WTO
27 (Sat)	Peace Through Education (Public Conference)
	Key Note Speaker: Zamaswazi Dlamini-Mandela
	Panel 1~2
	Seminar Papers, Workshop and Posters
	Swiss Culture Night Cruise on Lake Leman
28 (Sun)	Business Session 6
	Several Meetings etc.

２．総会行事

－ GWI 33rd General Assembly Business Session －

ビジネスセッションは，第１日目（25日），第２日目（26日），第４日目(28日)に開催された。大会要項に記された主な内容は以下の通りである。

セッション１(25日午前)

＊各国代表，総会役員紹介　＊謝罪　＊定足数確認　＊議題・進め方の採択

＊第32回大会議事録　＊新規加入者紹介　＊GWI　理事会・常任委員会候補者の紹介

セッション２(25日午前)

＊2016～19年戦略計画の報告　＊GWI　財務状況の概要

セッション３(25日午後)
　＊理事会や様々な委員会からの報告
セッション４（26日午前）
　＊会長・副会長・会計の選挙結果　＊2020～22年の予算案の提示　＊会費案の提示
　＊審議と採決　＊第34回大会の日時と場所の議論と採決
　＊政策決議事項１～４の紹介・審議・採決
セッション５（26日午後）
　＊定款紹介　審議と採決　＊GWI委員会の選挙と任命
　＊政策決議事項５～８の紹介・審議・採決
セッション６（28日午後）
　＊審議未了の議題
　＊第34回トリエンナーレの開始と新メンバーの発表
　＊第33回トリエンナーレの閉会

大会初日，総会会場に入ると，議決権のある各国代表の評議員の席が前方に設けられており，議決権のない一般参加者席が後方に設定されていた。議決権はないが，一般参加者にも発言権はあった。

ビジネスセッション１は GWI 会長 Geeta Dessai 氏とスイス大学女性協会会長 Dorris Boscardin 氏のあいさつで始まった。次に，スイス国立評議会のメンバーである Lisa Mazzone 氏の歓迎の言葉があった。１世紀前には大学には女性の 10 パーセントしかいなかったが，幸い，この状況は変わった。しかし，公共の場に位置するためには女性はまだ戦わなければならないと語った。その後，「教育：女性蔑視に対抗するツール」というテーマで，オープニング基調講演があった。

プログラムはさらに，定足数確認，３年間の事業報告や会計報告といった一般的な会議のプログラムが進んでいった。その中に「謝罪」という通常の総会では見られない項目があった。これは，南アフリカ共和国の Catherine Bell 氏が GWI 会長を務めていた折の，ずさんな予算支出についての報告であった。これまで GWI が貯めていた資金を「宣伝が大切，もっと宣伝して会員数を増やすべき」との方針を出し，野放図に資金を使ってしまった。しかし，会員数は増えなかった。その後，会費の値上げが提案されたが，実現しなかったといった内容のようだ。

各国の GWI メンバーの紹介があった。議決権のある代表者がいちばん多いのはカナダ。日本は３名。議決権者の数は各国のメンバー数に応じて割り当てられている。レマン湖クルーズで隣の席になったスペイン支部長は，スペインのメンバーは 158 人と言われた。日本の数を聞かれたので約 400 人と答えると，「たくさんね」と。参加者はお年を召した方が多く，おぼつかない足元でも積極的に参加されているのが印象的だった。

26 日には，ビジネスセッション４と５が開催された。大会要項には，2020～2022 年の役員選挙，会計案審議や第 34 回 GWI 総会の場所や日時などの議論が行われるとあったが，初めてのスイスなので，この日は，モントレーにシヨン城の見学に出かけ，帰路は，お城からモントレーの駅までレマン湖畔の散策を楽しんだ。

GWI ニュースレターによると，次期会長は，オランダの Terry OUDRAAD 氏。以下の８つの政策決議がなされたようだ。

1：公平な教育への積極的貢献として多様な背景を持つ教師の採用
2：女性の教育を通しての平和の構築
3：人権としての性と生殖に関する健康教育の公共化
4：女性と STEM（科学・技術・工学・数学）
5：難民と移民の女性と子供の人権
6：難民および亡命希望者の公正かつ非差別的な管理
7：職場でのセクシャルハラスメント
8：グローバルな目標としての SDG s （持続可能な開発目標）

３．100周年記念祝賀会
－ GWI Centenary Celebration －

25 日夕には，ジュネーブ大学ユニメールキャンパスの広いアトリウムに 300 人以上のメンバーが集い，100 周年祝賀会が開催された。100 周年記念の歌が披露されたり，ロゴコンテストの優勝者が表彰されたり，奨学金の授与者が祝福されたりした。いちばん大きな賞は創立者の一人 Caroline Spurgeon 教授の名を冠した 100 周年記念奨学金 12,000CHF(約 130 万円)，その他の奨学金は，6,000￡（77 万円），5,000￡（64 万円），1,000CHF（11 万円）であった。これまでを 10 年ごとに振り返った活動の紹介があったが，会場は暑く，私は疲れ切っていたので，とても長く感じられた。その後，GWI 100 周年記念ケーキカットが行われ，いくつかのパフォーマンスが披露された。

コーヒーブレイク

100 周年祝賀会

４．WTO 訪問
－ Visit to WTO (World Trade Organization) －

26 日夕方からは，WTO の見学があった。前もっての登録が必要であり，私は申し込んでいたが，申し込まずに当日参加を希望した人は参加不可とのことであった。丁度，韓国が WTO に日本を提訴した時期でもあり，WTO 内部を見学できたのはとても貴重な経験であった。WTO はジ

ュネーブ駅からトラムで５つ目の Nations 駅の近くにある。その近くには国連ジュネーブ事務所も。往路は主催者が用意した大型観光バスでの移動であり，渋滞もあってかなり時間がかかった。建物に入るまで，また，会議室に入るまでにも結構な待ち時間があった。受付では，一人ずつパスポートを預け，代わりの札を受け取って胸につけた。セキュリティーチェックを受けた後にやっと会議室に入ることができた。会議室のテーブル上には，マイクやイヤホンなどが設置されており，発表者のスピーチはイヤホンで聴くようになっていた。机の上には，「GWI100 周年記念 平和は教育から　－女性のエンパワーメントに関する WTO 基調議論―」と書かれたリーフレットが置かれていた。

全員が席に着くと，WTO 事務局長のビデオメッセージが流れた後，WTO 理事長，国際貿易センター事務局長などのスピーチが行われた。スピーチの中で，「会議室いっぱいにカラフルな花が咲いたような金曜日というのは極めて珍しい」とのコメントも。確かに，わずかに同伴者の男性の参加があったにせよ，何十か国もの女性が，色とりどりの民族色豊かな衣装をまとって，100 人以上も一堂に会するのは珍しい風景であっただろう。

註：当時の事務局長は ブラジル出身の Roberto Azevedo 氏であった。2020 年 5 月，彼は任期 1 年を残し，8 月末の辞任を発表。2020 年 7 月末現在，次期事務局長選に英国，サウジアラビア，メキシコ，エジプト，モルドバ，ナイジェリア，ケニア，韓国からの 8 人が立候補とある。ナイジェリア，ケニア，韓国の候補者３名は女性である。

会議室を出ると，ロビー活動を行うスペースがあり，その外は，レマン湖が見える開放的な雰囲気の庭に続いていた。ロビー活動が行われる場所を実際に見ることができる貴重な機会であった。加えて，チーズなどのおつまみに，赤と白のおいしいワインがふんだんに準備されていた。「明日，〇時から私の発表があるから聞きに来てね」と宣伝をしている人も。私が話したのは，インドの Meera 氏。プネ在住の環境コンサルタントで，いろいろな女性支援の活動をしているとのことだった。途中から話に加わったのは，20 年近く前に，コンゴからアメリカに来て，今は社会心理学の Ph.D.をとるために大学院に在籍しているという女性だった。1 時間ほどの時間を過ごし，三々五々，参加者たちはパスポートを受け取って会場を後にした。各自自由に帰るということで，公共のバスを利用してホテルに戻った。

日本は今，英語教育に力を入れようとしている。しかし，こうした場所で自由に意見交換ができる語学力をつけるための教育とは程遠いであろう。英語教育に充てる時間がこれまでより若干多くなったとしても，十分な議論ができるような語学力が身につくとは思えない。もっと，世界で堂々と意見交換できる批判的思考ができ，世界についてしっかりと知ったり，考えたり，自分の見解を持てたりするメンタリティの育成が重要ではないかと思った。

日本からの参加者は，岡山支部の３人と私だけであった。次ページに，当日配付されたリーフレットを紹介しておきたい。

GRADUATE WOMEN INTERNATIONAL 100th ANNIVERSARY PEACE THROUGH EDUCATION

WTO Keynote Discussion on Women's Empowerment

Graduate Women International (GWI) is an NGO, headquartered in Geneva, Switzerland, whose membership is comprised of graduate women and whose mission is education for all women and girls. They have Federations and Associations in fifty-five countries and they all act to advocate for the education for all women and girls. It is one of the oldest women rights' organizations in the world. It was created in 1919.

As part of the 100-year celebration, GWI is organising a week-long of discussions and assemblies including 400 women from the organization coming from fifty countries.

The event's theme is "Peace through Education". It will be dedicated to helping women acquire global leadership skills and to their participation in national and global avenues to eliminate barriers to equal and inclusive education, social and economic justice and the empowerment of women.

Progress in the last 2 years, since gender was made an integral part of the WTO's work, has been building and growing. It follows the recommendations, actions and objectives set in the Buenos Aires Declaration on Trade and Women's Economic Empowerment as well as the WTO Trade and Gender Action Plan for 2017-2019. The keynote discussion intends to highlight the work of the WTO on trade and gender and also the role of trade in fostering education, peace and women's empowerment.

GRADUATE WOMEN INTERNATIONAL 100 years

WORLD TRADE ORGANIZATION | #trade for women

CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS

WTO KEYNOTE DISCUSSION ON WOMEN'S EMPOWERMENT

26 July 2019 - Room W

SPEAKERS

ROBERTO AZEVÊDO

Director-General, World Trade Organization (video message)

AMBASSADOR SUNANTA KANGVALKULKIJ

General Council Chair, World Trade Organization

ARANCHA GONZALEZ

Executive Director, International Trade Centre

RATNAKAR ADHIKARI

Executive Director, Enhanced Integrated Framework

GEETA DESAI

President, Graduate Women International

GABRIELLE MARCEAU

Counsellor, Legal Affairs Division, World Trade Organization

ANOUSH DER BOGHOSSIAN

Trade and Gender Focal Point, World Trade Organization

WTO 門の前に立つ岡山のメンバー

会議室風景

ロビー活動が行われる場所

レマン湖を望む屋外

５．公開会議「平和は教育から」
―GWI Peace through Education Conference　―

大会３日目(27 日)は「平和は教育から」をテーマにした公開行事が開催された。私は，このテーマにひかれて GWI 世界大会への参加を決めた。

ギータ会長の挨拶の後，基調講演者はネルソン・マンデラ氏の孫娘 Zamaswazi Mandela 氏であり，人権活動家となっていた。招へいはニュージーランドの大学女性協会オタゴ支部の資金提供によるものであった。祖母から受けたサポートが大きく，祖母を通して祖父の思想を強く伝えられたことが，今も人権活動家として活動する基盤になっていると，涙を流しながら祖母の話をされたのが印象的であった。

会議では，２つのパネルディスカッションがあった。パネル１は「紛争の予防と段階的縮小，および，持続可能な社会の構築における教育と男女平等の進化する役割」であり，パネリストの一人は，イラク出身の 24 歳の Adiba Qasim 氏であった。現在の肩書は Student, Horizon Academique(Center for Intefration of Refugees and Asylum Seekers) となっていた。2003 年のアメリカによるイラクアタック，2014 年のモスルでのジェノサイトに遭った女性であり，これまでの経験が話された。彼女は紛争地帯出身の女性として，安全保障における女性の役割を理解し，若いリーダーとして活躍しようとしている。後で，「モスルは美しい街だった」と言われていたのが印象に残っている。多くの紛争地の映像が報道されるが，紛争が起こる前の平和な時代を経験している彼らが，変わり果てた祖国をどんな思いで見ているのか。私は 2002 年からアフガニスタンの教育に関わっている。アフガンの女性教員たちもまた，美しかった祖国のことを語るとき

には涙ぐんでいた。希望の見えない今を生きる彼女たちの嘆きと重なって胸が痛んだ。男たちの野望の犠牲になるのは，いつも弱い立場の子供や女性たち・・。今も世界のあちこちで起きている紛争・・。女性ならではの視点で，できることが何かを考えていく必要性を感じた。ニュースレターには，「パネルの目的は，GWI メンバーが，活動の実践において，平和構築者としての女性を支援する役割を取り入れることを奨励すること；自分自身で重要な意思決定の部分を担うこと；すべての人々，特に母国から逃げなければならない女性と少女たちの教育と支援を促進」とあった。

パネル２は「グローバルな認識と関与：紛争の推進要因としてではなく，教育と開発への道として，グローバルな経済，社会，環境のつながりを理解する」であった。

２つのパネルの間，また，パネル２の後に，口頭発表，ポスター発表，ワークショップが開催された。発表者は，以下の５つのサブテーマのいずれかに該当する発表をすることになっていた。

１．女性と少女の教育は，どのように紛争を防ぎ，社会を変革することができるか？

２．カリキュラムは平和の文化をもたらすために，どのように成長，変化することができるか？

３．３分の２は紛争下にある世界とつながった世界に住んでいるとはどういう意味か？また，紛争は私たちの日常生活にどのように影響するか？

４.若い専門家は，教育・ジェンダーの問題と，自分の個人的・職業上の成功とのつながりを理解し，結びつけるために，どのように力を与えられるか？

５．大卒の女性は，教育・平和・アドボカシー・行動の交錯するところで，地域・国・世界の政策に影響を与えるためにどのように働くことができるか？

テーマ１に関する発表がいちばん多く，テーマ２と５がそれに次いでいた。テーマ３に関する発表はなかった。しかし，各テーマの主題が何であるのかがわかりにくく，テーマに沿った発表とは限らなかった。

口頭発表・ポスター発表は，どちらも３つの分科会が並行して行われ，１つの発表に割り当てられた時間は 20 分で，発表と次の発表の間には５分のインターバルが設けられていた。午前のワークショップは 11:15～12:35，午後のワークショップは 14:45～16:00 と 16:15～17:30 で，それぞれ，６題，７題，８題のワークショップが並行して開催された。

キャンセルされた発表もあるが，大会要項に記されていた各国の発表数は以下の通りである

アフリカ	ナイジェリア	ガーナ	エジプト	セネガル	ウガンダ	シェラレオネ
	O7	O6+W1	O2	O1+W1	O1	W1
アジア	インド	日本	香港	中東	トルコ	イスラエル
	O8+W3	O2+P1+W1	O1		O1+W3	W2
ヨーロッパ	リトアニア	フランス	イギリス	GWI他	ジュネーブ大	WTO
	O2	O1	W1	O1	W1	W1
太平洋諸国	オーストラリア	ニュージーランド	フィジー			
	O2+P1	W２（＊）	W1	（＊）トルコと共同・USAと共同		
北米・メキシコ（中米）	アメリカ	メキシコ	カナダ			
	O3+W2	O3	W1		O：口頭発表	
南米	エルサルバドル	コスタリカ			P：ポスター	
	O1+W1	P1			W：ワークショップ	

アフリカの発表が多いのは，学会での発表のように自分の業績として利用することができるのかもしれないと思った。スイスでの開催にもかかわらず，ヨーロッパの発表は非常に少なかった。

口頭発表の中で，インドのプニ在住の Meera Bondre 氏の発表を途中から聴いた。タイトルは，Creating Agents of Peace through Non-formal Education。プネの水環境の話があり，その後，刺繍などでの女性支援の話に及んで，会場後方には，その作品が並べられ購入を求めていた。

メキシコの Nayana Guerrero Ramirez 氏は Understanding the Digital Gender Gap in Mexico というタイトルでの発表であった。メキシコにおける 2015－2018 年のインターネット使用者の主な目的の変遷が示された。情報取得・コミュニケーション手段・視聴覚コンテンツとしての利用は以前から変わらず利用率が高いこと，教育や研修への利用やソフトのダウンロードの割合が 2017 年から急速に高くなってきていること，ICT セクターでの男女の割合は 2014 年には男性が 60%・女性が 40%という数値も示されていた。2016 年の EU における科学技術部門の男女差というデータでは，（前者が女性）イタリア 34：66，ドイツ 33：67，多くの EU　40：60 に対し，トルコは 45：55 となっていた。STEM キャリアは将来最高の給与を得る仕事になるので，男女間で ICT へのアクセス・使用・創造の平等な機会を保証することが，男女共同参画の推進と世界の変革に貢献するだろうと結論付けていた（発表は，当たり前のことを言っているに過ぎない気がした）。

リトアニアの Ieva De Sousa 氏は，Mobilization of Young Graduates for Social Activities and a Peace Hike: Communication Challenges / Solutions という発表であった。最初に，リトアニアでは女性の就学率が非常に高いことが強調され，2015 年には，25～54 歳の 94.7%の女性が中等教育あるいは高等教育を受けていることが強調された。続いて示された WM Target Group のデータでは，30～34 歳のグループでは，68%の女性（47%の男性）が高等教育を受けていることが紹介された（EIGE,2017）。産後の有給育児休暇（Paid Maternity）は２年，３年目はオプションで無給であることの紹介。長く子供の面倒を見たい一方で，昇進への影響を心配することの問題はあるようだ。リトアニアの様々な女性の活動の紹介後，自分が立ち上げたブログサイト ISMINTINGA MAMA が紹介された。若い女性／母親の社会活動を高めることなどを目的としている。ブログ参加者の中には自分自身のビジネスを創造した人も多く，その例が紹介された。結論として「既成概念にとらわれず，現代のコミュニケーション手段で女性を動員することは，社会の創造に大きな影響を与える可能性がある。 それはより人道的であり，世界の平和を追求している。」と述べた。

註：EIGE　European Institute for Gender Equality

彼女の発表後，同じフロアにいた同国の女性から，男性の育児休暇の興味深い例が紹介された。５人の育児休暇中の男性たちが協力し，一人が 15 人の子供たちの面倒を見て，その間，他の男性たちは好きなことをするというものだった。「やんちゃ盛りの子供を一人で 15 人も見ることができるなんて信じられない」と言ったのだが，「うまくやっている」と返事が返ってきた。昼食時に講演者に話を聴くと，育児休業中の支払いは，以前は１年目は給与の 70%，２年目は 50%だったが，今はいずれも 50%と，経済の悪化で下がってきているとのことだった。リトアニアでは，子供が小さいときは親がそばにいるのがよいという考えで，ゼロ歳児保育はなく，早く仕事に戻りたいときはベビーシッターを雇う必要があり，費用は１時間５ユーロ位とのことだった。彼女自身も，２人の子供がいて２年ずつの育児休暇を取ったとのこと。発表では，有給中に新しく起業

することの紹介があった。会社は２年間，給与を支払っている。にもかかわらず会社を辞めると，会社に不利益が生じると思うと言ったが，コメントはなかった。日本では，そうした女性が増えれば，会社側は「だから女性は・・」と言い出すのではないかと思った。

余談になるが，前日に会ったコンゴからアメリカに移住した大学院で学んでいる女性とウガンダから参加している女性と会い，子供の話になった。アメリカ在住の女性は４人の子供の母親，ウガンダの女性は１人の子供がいるとのこと。１家族の平均的な子供の数を聞くと，ウガンダの女性は,「私たちのカルチャーではわからない」と。一夫多妻であることを失念しての愚問だった。彼女は付け加えて,「子供のいる女性は決してこのような場所に来ることはできないで，家に縛られている。私はシングルマザーだから，ここに来られるの」と。他の分科会に参加した方からは「アフリカでは，相変わらず，家に縛り付けられる女性の話があった」とも聞いた。

メキシコ Nayana 氏の口頭発表

リトアニア Ieva 氏のスライドより

この日の夜は，レマン湖クルーズに参加した。１テーブルは４人，日本から参加の N さんと窓側の席に座ったところ，その横にはスペインの大学女性協会会長夫妻が座った。ご夫妻とは話が弾むこともなく，食事も私の口に合うものではなくて残念だった。

６．地域別集会

会議４日目には，GWI に焦点を合わせたセミナーなどがあったが，ランチタイムの地域別集会のみ参加した。「アジア地区集会」の場所設定がなく，うろうろしていると，シンガポールの Irene Bony 氏が「ここで，アジア集会をやろう」と声がけして，20 人ほどが集まった。インドからの参加者がいちばん多く，日本からは６人が参加した。バングラディシュの女性もいた。Irene 氏が自ら仕切りはじめ,「とにかく，今日参加している人でメーリングリストをつくろう。私がみんなにメールで呼びかけるから」と，一枚の紙にメルアドを記入するように求めた。たまたまその場にいる者だけでメーリングリストを作っても仕方ないのに‥と思いつつも記入した。

組織のネーミングも話題となった。あちこちからいろんな意見が出て収拾がつかない。元会長の青木氏が「GWI のルールに則って名前を付けるべき」と意見を述べた。しかし，大会要項に見る各国の略称はまちまちの気がした。例えば, Graduate Women New Zealand (GW-NZ), Women Graduate-USA（WG-USA），Graduate Women International Netheulands（GW-NL）など。ちなみに，日本は Japanese Association of University Women（JAUW）で，この形の名前を付

けている国が多くみられた。

アジアの会報を出してはどうかという意見もあり，どれくらいの頻度で発行するのがよいかという意見を日本に求められた。どなたも明確な意思表示をされず，それまでのばたばたした議論に嫌気がさしていた私は，これまでの状況も把握していないにもかかわらず「それぞれの国は，違った課題を抱えている。アジアでは言葉の問題もあるので，そんなに頻繁に発行する必要はないのでは？個人的には年１～２回でよいと思う」と深い考えもなく言葉を発してしまって，後で反省・・。GWI からアップデートのお知らせメールが来ても，あまり関心をもって記事を読んでこなかったこともあってのこと。個人的には，自国での議論をきちんとした上で，アジア各国と共通の問題があれば，論点を明確にして提言する必要があると思った。

アジア地域の集会

ジュネーブ大学キャンパスのある建物外観

７．会議に参加しての感想

今回，初めて世界大会に参加し，気づいたことや考えたことを箇条書きの形であげておきたい。

＊総会行事に多くの時間が充てられている。３年に一度のことなので，仕方ない所もあるのだろうが，前もっての準備を充実させることで，大会当日の進行をよりスムーズに行うことはできないのだろうかと思った。

＊総会では，今後３年間の活動にかかる「一般(政策・行動)決議」８項目が採択された。これらの項目がどのように各国に降りていき，実践に向けた取り組みがなされるのだろうか。大学女性協会の活動とどのように連携していくのかと思った。

なお，この点に関係しては，2020 年 7 月末に大学女性協会国際支援・CIR・国際ネットワーク担当の鈴木千鶴子理事から，理事宛に「GWI 会長と加盟国団体会長および CIR による非公式懇談会報告」があった。この資料を見ると，GWI における活動の様子がわかるので，鈴木理事の許可を得て，最後に参考資料として付け加えた。

＊公開イベント「平和は教育から」は口頭発表が多く，ポスター発表が少なかった。英語がネイティブでない参加者には，ポスターの方が議論しやすいのではないか。また，大会要項に，発表のアブストラクトがなかった。後日，ウェブ上にあがっていたとのことだが，やはり，当日配布すべきものだと考える。

＊世界大会参加者は，ハイソの女性たちに思えた。各国の底辺であえぐ女性たちの現状にどれだけ共感されているのかが，私にはみえなかった。

＊高齢者が多いがとても行動的な参加者が見られた。その積極性に，日本人が学ぶことは多い。
＊断片的だが，各国のお国事情を垣間見ることができた。地域ごとの問題点を話し合う場の充実がのぞまれる。

付記　会議以外の訪問先

７月 26 日　モントルー　シヨン城，ジュネーブ　自然史博物館
７月 28 日　CERN(欧州原子核研究機構)　日曜日のため，外観のみ
　　国連ジュネーブ事務所（旧国連本部）外観のみ
　　アリアナ美術館　ジャーディン樹木園＆植物温室
７月 29 日　ツェルマットに移動　ゴルナーグラート展望台へ　ハイキング（お花畑）
７月 30 日　スネガへ　ハイキング（お花畑・森林）
７月 31 日　インターラーケンに移動　フィルストへ
８月　１日　ユングフラウヨッホ　クライネ・シャイデックへ
　　夕方　チューリッヒへ移動
８月　２日　ホテル発　帰路へ

謝辞

世界大会に参加するにあたっては，国際支援・CIR・国際ネットワーク担当の鈴木千鶴子理事に大変お世話になった。また，報告をまとめるにあたっても貴重なアドバイスをいただいた。記して感謝の意を表します。

【参考資料】

GWI 会長（Terry Oudraad）と加盟国団体会長および CIR による非公式懇談会（Zoom）報告

2020 年 7 月 31 日

鈴木千鶴子（CIR）

日時：2020 年 7 月 11 日（土）23 時～24 時

参加者：20 人（最少時）～28 人（最多時）

概要：

１）司会：事務局長 Stacy Dry Lara，技術：夏期インターン Sophie Husser，による進行

２）前半約 35 分間，Terry 会長による GWI の過去・現在・未来の概説

３）後半約 15 分間，いくつかの NFA からの活動紹介

４）最後約 10 分間，Terry を中心に，今後の GWI の方針の確認と行動予定案意見交換

特記事項：

１）Terry 新会長は，ある意味高齢であるだけに，世界各地の女性の状況について長年の経験が豊富にあり，とりわけ難民援助の NGO で活躍してきた実績には期待したい.

２）会長は，昨年夏の 100 周年記念総会のテーマ「平和は教育から」に GWI の 100 年間および今後のヴィジョンとミッションが込められていることを強調し，世界全域がコロナ禍に見舞われる中，全ての人にとって「平和で公正な社会」を創ることに力を合わせようと呼掛けた.

３）現在加盟国は 51 プラス２国合同 NFA が一つ，で NFA 合計は 52．各 NFA の会員数は最大 7537～最小 20（18 カ国）；全会員数は 14,426（2019 年末届け出）.
６地域：アフリカ，アジア，ヨーロッパ，南米，太平洋諸国，北米・メキシコ.

４）2022 年に予定されている第 34 回 GWI 総会について，開催地は未定のため，立候補を募っている. テーマは, UN Women が北京＋２５を記念し本年開始したキャンペーン”Generation Equality”（平等をめざす全ての世代）を軸に進める．その準備期間中（2 年間弱），６つの地域内での意見交換・議論を積極的に進めてほしい．また，NFA 会長と CIR による今回のようなオンライン会合も 3 ケ月に一回など，定期的に行うことを計画している.

５）オンライン会合については，それぞれの NFA 内でも活発に進められている．＜例＞アメリカ（WG-USA）毎月一回, BLM や COVID-19 について;若手メンバーグループ（YM）は Webinar 開催；エジプトは各委員会が毎月会議；ニュージーランドは何らかの活動を計画中，等.

６）GWI の各委員会間ではオンライン会合が定期的に行われているが，新型コロナ感染拡大の影響で増大している DV 被害，オンライン授業，留学生の苦境，などについての意見交換・意思統一を，3 年に一度の対面による会合では処理しきれないため，理事会も今後はより頻繁に対面での会合も計画したい.

以上

＜註＞

GWI： Graduate Women International　**大卒女性インターナショナル**

CIR：： Convenor/Coordinator for International Relations　**国際関係調整担当**

NFA： National Federation or/and Association　**加盟国団体**